

科目名	企画科目（古文書解読B）			学期	前期	単位数	2	担当者	坂口太郎
副題	中世文書を読む								
ナンバリング	G2-12-323	授業方法	講義	実務経験の有無			無	関連DP	1,2

授業の目的と概要

この授業では、中世の古文書を教材として、「変体漢文」やくずし字を理解する基礎を養う。本年度は、とくに中世天皇の自筆文書、公家様文書・武家様文書を通して、政治史的な背景も押さえつつ、古文書に関する学識を高めることを目指す。なお、授業計画に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。したがって、シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、予めお断りしておく。

授業の到達目標

中世の古文書に関する読解能力を身につける。

古文書を通して、中世の天皇を取り巻く政治状況を説明できるようになる。

古文書を通して、中世国家における公家・武家の権力について説明できるようになる。

授業計画

1. 古文書序説（古文書とは何か、辞典の使い方、史資料の調査方法など）
2. 中世の天皇文書を読む①—後鳥羽上皇筆手印置文の前半部—
3. 中世の天皇文書を読む②—後鳥羽上皇筆手印置文の後半部—
4. 中世の天皇文書を読む③—後鳥羽上皇筆手印置文の時代背景—
5. 中世の天皇文書を読む④—後伏見上皇筆願文案の前半部—
6. 中世の天皇文書を読む⑤—後伏見上皇筆願文案の後半部—
7. 中世の天皇文書を読む⑥—後伏見上皇筆願文案の時代背景—
8. 中世の奉書と直状
9. 中世の公家様文書を読む①—院宣—
10. 中世の公家様文書を読む②—綸旨—
11. 中世の武家様文書を読む①—関東御教書—
12. 中世の武家様文書を読む②—関東下知状—
13. 古文書・古典籍の複製を扱う
14. 高野山における調査
15. 高野山における調査

準備学習（予習・復習）・時間

事前学修として、課題の古文書写真を毎回読解し、古文書に関する専門用語の意味を理解しておくこと（90分）

講義内容の要点をノートに整理するほか、図書館で関連図書を読むこと（90分）

テキスト

児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版、1993年）

※書店で購入。また、古文書の図版プリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ①佐藤進一『[新版] 古文書学入門』（法政大学出版局、1997年）
- ②石井進『中世の古文書を読み解く』（東京大学出版会、1990年）
- ③田中稔『中世史料論考』（吉川弘文館、1993年）第1部「日本の古文書」
- ④喜本和夫ほか編『文献史料を読む—古代から近代—』（朝日新聞社、2000年）

学生に対する評価

授業中の参加態度（予習および発言、50%）、期末試験（50%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 基礎的なくずし字を解読できる。
- (B) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できる。
- (A) くずし字で書かれた古文書の文面を解読できるとともに、その歴史的背景を理解できる。
- (S) 古文書の読解能力を習得するとともに、古文書の形態や、中世文書に関する専門的な知識を習得している。

課題に対するフィードバックの方法

講義中には、古文書の読解について随時試問する。これに関わる質問については、毎回の授業内で対応する。

その他

本講義の内容を理解する上では、漢文読解能力が必要となるので、注意されたい。毎回、宿題を課すので、必ず答案を作成して次回の授業に臨むこと。

『くずし字用例辞典 普及版』は高価であるが、必ず購入して、授業に持参すること。（例年、類似の書名で、価格の安い『くずし字解読辞典』と間違える人がいるので、購入の際には要注意）。

本演習では、高野山において、古文書・古典籍の調査を、2回ほど実施する予定である（土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する）。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）